

## 一般成人向けの日本語コースデザインの改善 — ノボシビルスク市立「シベリア・北海道センター」の場合—

プーリク, イリーナ

### 要旨

本研究は、趣味や教養として日本語を勉強している一般成人対象のコースデザインの改善の試みである。筆者は、まず、学習者、所属機関（経営者と教師）への調査を実施し、ロシア・ノボシビルスクの学習者の日本語使用環境現状とコースの問題点を明らかにした上で、コースの目的を確認した。その上で、2つの研究課題を取り上げた。1) 学習者が実際に行うコミュニケーション活動に基づくシラバス開発、2) そのシラバスを教える授業の枠組みの設計である。シラバスは、JF 日本語教育スタンダードを参考にし、所属機関の学習者向けの Can-do を作成した。そしてこの Can-do シラバスにより相応しい教室活動を考え、実験授業を実施し、学習者・教師の意見及び感想を分析した上で、授業の枠組みの設計を検討した。今後も、本シラバスを実際にコースに取り入れるために、教材の開発や評価方法の検討を行い、継続的なコース改善を図っていきたい。

[キーワード] 一般成人、日本語使用環境、JF 日本語教育スタンダード、Can-do、シラバス開発

### 1. 研究背景

シベリア・北海道文化センター(以下 SHC)では、1996 年から一般成人向けのコースが実施されている。2000 年代前半以降、学習者が増えてきており、現在、約 200 名である。本コースは今まで、特にシラバスを作らず、『初級日本語』(東京外国語大学留学生日本語教育センター、1994)という教科書をそのまま実施してきたが、それぞれの教師が自由に副教材を使っている。また、コース開講時に、学習者のニーズ調査を行わず、コース全体の目的と意義も明確に規定していなかった。一方、このコースの実施開始以降、約 14 年が経過し、その間ロシアにおいて、インターネットの普及をはじめ、様々な社会と経済の変化が起こり、日本語学習者も増えてきた。このような状況のもと、本コースは、あらためて、ノボシビルスクの学習者のニーズ、学習目標、日本語使用の観点から考えて、見直しを検討する時期に来ていると思われる。

#### 1.1 コースの概要

SHC の日本語コースの期間は 3 年間であり、総時間数は 288 時間である。学習者は約 200 名であり、教師は 11 名である。コースの概要を、下記の表にまとめた。

表1 SHCの日本語コース

1年目				2年目				3年目			
9月後半- 12月 14週間	冬 休み	1月後半- 5月 18週間	夏 休み	9月後半- 12月 14週間	冬 休み	1月後半- 5月 18週間	夏 休み	9月後半- 12月 14週間	冬 休み	1月後半- 5月 14週間	
	3 週間		15 週間	JLPT4級 受験	3 週間		15 週間	JLPT3級 受験	3 週間		
授業時間 1-42		授業時間 43-96		授業時間 97-139		授業時間 140-194		授業時間 195-236		授業時間 236-290	

コースの期間は3年であるが、ロシアの教育機関の夏休みは3ヶ月（6月～8月）と長い  
ため、授業時間は290時間を超えない。さらに、趣味や教養で習っている学習者は、時々授  
業を欠席することもある。コースデザインの改善を考える際にも、時間数が変わられないこ  
とと、欠席者がいるので今以上に学習スピードを上げられない状況を踏まえる必要がある。

## 1.2 コースを取り巻く環境

ノボシビルスクでは、長期滞在している日本人及び日系企業が少なく、日本の留学や日  
本語を使って就職できる学習者が少ない。福島・イヴァノヴァ（2006）は、ウズベキスタン  
の日本語学習環境について、地域内に日本語コミュニティがなく、旅行、留学等で日本に行  
くことも稀で、教室外で日本語と接触の少ない「孤立環境」と定義している。ノボシビルス  
クの場合、教室以外にインターネットや札幌との姉妹都市交流事業への参加を通して、日本  
語と接触し、実際に日本語でコミュニケーションが出来る機会が増えてきた。つまり、ノボ  
シビルスクにおける日本語学習環境は、ウズベキスタンなどに比べて孤立程度が低いとい  
う予測が立てられる。そのため、SHCのコースデザインの改善を考えるにあたって、学習者が  
実際に行っている、または行う可能性のあるコミュニケーションのための能力の養成に取り  
組むことが必要であると考えられるようになった。

## 2 事前調査

コースデザインの改善を目指し、学習者や機関のニーズ、日本語使用環境の特性、現在  
のコースの問題点を明らかにするために、現状を把握する調査を行なった。

下記は、事前調査の概要、及び調査の結果とそのデータである。

### 2.1 事前調査の概要

#		対象者、人数	方法
1	学習者への調査 ● ニーズ調査 ● 日本語使用経験および学習希望調査 詳しくは、本稿の第5章参照。	SHCの学習者 81名 1年生 46名 2年生 21名 3年生 14名	アンケート (ロシア語)
2	機関の経営者への調査 ● ノボシビルスクにおける日本語教育の 意義、機関の期待	機関の経営者 2名 SHCの館長、 市の担当者・国際部長	半構造化インタビュー (ロシア語)
3	SHCの教師への調査 ● SHCの日本語コースの成果と問題点	ノンネイティブ教師 2名	半構造化インタビュー (ロシア語)

## 2.2 ニーズ調査の分析と結果

ここでは、事前調査のうち、ニーズ調査の部分について、分析を行う。日本語使用経験及び学習希望調査については、第5章で言及する。学習者への調査の項目は、添付資料1を参照。

SHCの学習者は一般成人だが、具体的な内訳は、下のグラフの通りである。

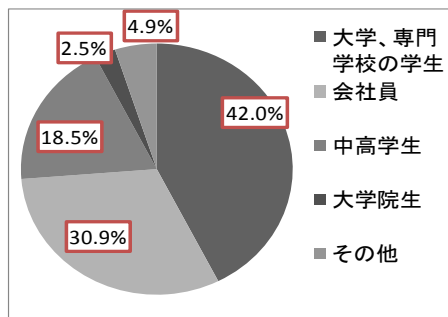


図1 SHCの学習者の職業

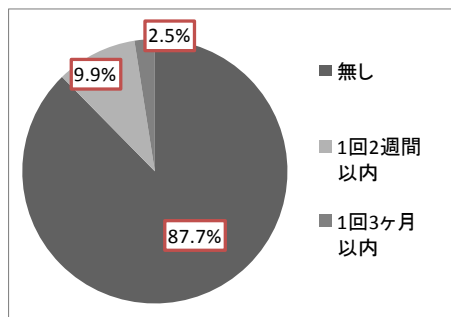


図2 学習者の来日経験

学習者の年齢は、15歳～19歳が38.3%、20歳～25歳が42.0%、25歳～30歳が12.3%である。来日経験は非常に限られている。

SHCのコースに入った時の学習目的と学習者が日本語学習から得たいことを、以下の図3、4にまとめた。

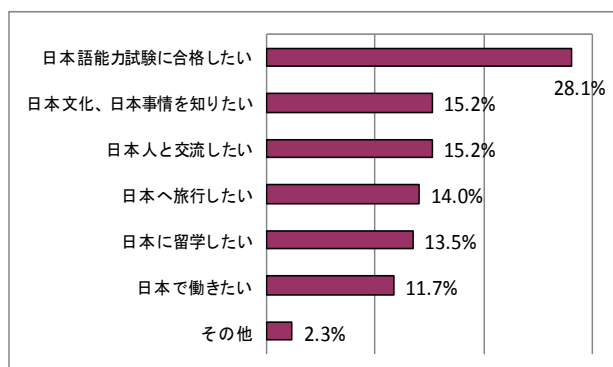


図3 SHCのコースに入った時の学習目的

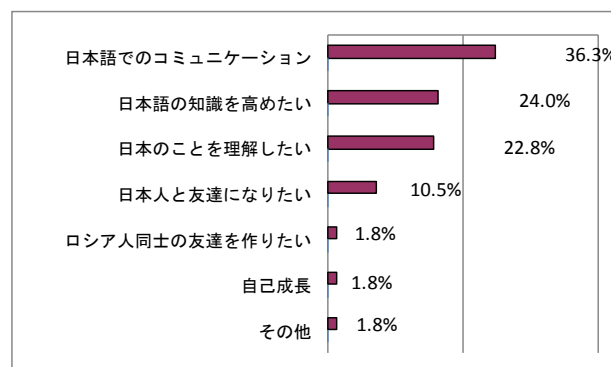


図4 現在日本語学習から得たいこと

図によると、日本語能力試験（以下 JLPT）に合格したいと答えた学習者が28.1%であるが、多くの学習者が「日本文化、日本事情を知りたい」、「日本人と交流したい」、「日本へ旅行したい」という日本への興味を挙げている。「日本で働きたい」、「日本に留学をしたい」学習者もいるが、実際の状況を見ると、実現可能性が低いと考えられる。一方、多くの学習者は、SHCで日本語学習を続け、学習から得たいことが、コミュニケーション能力、言語知識、日本の理解であると答えた。

また、日本語使用に関する調査によると、95.1%の学習者が、教室以外で日本語を使っていることが明らかになった。その日本語使用範囲は大きく2つに分けられる。1) インターネットなどを通しての使用（読む/聞く）と2) 日本人との接触がある使用（対面、インターネット/メール）である。その他に「ロシア人同士（例：クラスメート）で話す」

(4.0%) という回答もあった。項目毎の日本語使用について、やりとりの有無、やり取りの相手によって回答を分類し、図5にまとめた。

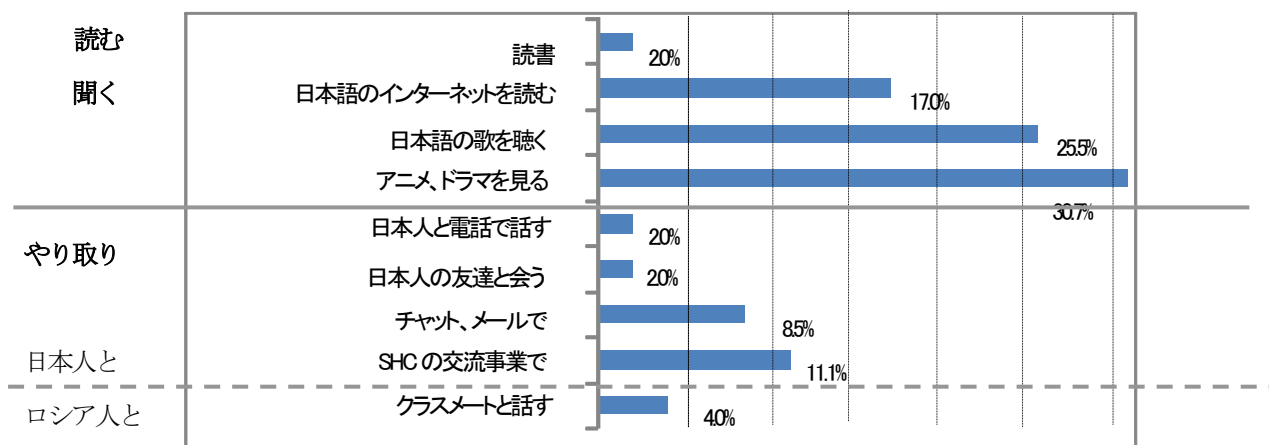


図5 SHCの学習者の日本語使用

この調査により、実際に日本語を使用する機会が多く、使用形態にもバラエティがあることが明らかになった。したがって、1.2で予測したように、ノボシビルスクにおける日本語学習環境については、教室外でも日本語との接触が多い環境であると言える。

さらに、この日本語使用に関わるデータをより詳しく見ると、2年生以上になると、インターネットやSHCの交流事業で日本語が使える機会が増えてくることが明らかになった。日本人の知り合いがいる学習者は、1年生では18.0%であるが、2年生以上の人では67.3%に増える。日本人と知り合ったきっかけは、「SHCの交流事業で」が40.4%、「インターネットで」が34.0%、「SHCの日本語の授業で」が25.5%である。このことから、日本語学習を支援するSHCの活動が生かされていることが明らかになった。日本人の知り合いと話す話題は、「趣味、興味」42.9%、「日本について」25.4%、「自分のことについて」15.9%、「ロシアについて」15.9%である。

## 2.3 機関への調査の結果

機関の調査では、SHC館長と市の担当者・国際部長にインタビューし、ノボシビルスクにおける日本語教育の趣旨について尋ねた。結果は、以下の通りである。

ノボシビルスクにおける日本語教育の意義について、機関の運営者が下記の3つのことを重視していることが明らかになった。①日本の理解・異文化とのふれあい。市国際部長の意見によると、異文化と外国語のふれあいにより、自分の経験、知識を増やし、市民の生活は豊かになる。②地域交流の発展。「日本語の学習をきっかけにして、市民が地域交流に活発に参加するようになる」とSHC館長が述べた。③人材養成。「日本は経済や技術のレベルが高い国であり、日本語は日本の経験を知るための道具である」と国際部長が述べた。SHCの日本語コースには、以下の3つのことを期待していることが明らかになった。①学習者が日本についての知識、日本への理解を深めること。SHC館長によると、日本についての情報は、本やインターネットより、日本人とのコミュニケーションを通して、日本人から直接に得ら

れる方が有意義である。さらに、国際部長から次の2点も上げられた。②日本語能力だけでなく、コミュニケーション能力の養成の場になること。コミュニケーションが上手になることによって、社会関係、仕事に生かすことができる。③学習者が自己成長をし、日本の経験や知識をロシアに生かせることである。

## 2.4 教師への調査の結果

教師へのインタビューから、現在のコースには、以下の問題点があることが明らかになった。まず、今までに、教科書どおりに教えていただけなので、教師は、文型や言語項目を教えることに集中している。「もう3年間日本語を習ったのに、自分が言いたいことはまだ十分に言えない」と学習者に言われた教師がいるように、コミュニケーション力が育っていない。教師の意見によると、コースでは、教えた内容をいつ、どのように使うかまでは、授業で扱えていないため、実際のコミュニケーションで学習者が混乱すると思われる。実際のコミュニケーションの場合、話し手の意思によって、会話が自由に変わり、どんなトピックにどんな文型を使うか、話し手は自由に選ぶ。コミュニケーション能力を養成するために、その言語項目の選択のバリエーションを教えることが必要であるという意見もあった。また、多くの教材で扱っている場面は、日本になっており、学習者の使用環境に合わない。ロシアでは役に立たない語彙や表現もある一方で、ロシアで日本語を使っている学習者にとって必要な語彙がない。

このように、現在のコースでは、ノボシビルスクに住んでいる学習者の日本語使用に焦点が当たっておらず、コースの目的、教材、教える内容と日本語使用環境の間にズレがあると言える。

## 2.5 ニーズ調査のまとめとコースの目的

SHCの学習者は実際にインターネットやSHCの交流事業の中で、日本語でコミュニケーションを行っている。しかし、そのコミュニケーションの内容と場面の特性は「ロシア国内」であり、話題は「興味・趣味」、「日本・ロシア」についての、いわゆる「情報交換」が多い。さらに、学習者は日本語を使い、日本についての知識と日本への理解を深め、コミュニケーション能力を高め、ノボシビルスクのコミュニティに貢献できることが望まれている。そのため、現在使っている「日本滞在」を舞台にしている教科書は相応しくない。日本語が使えるようになるために、何を、どのように教えるか考え、コースを改善する必要がある。

SHCのコース改善の第一段階は、コース全体の目的を確認することである。調査の結果を踏まえると、本コースの目的には、言語能力の向上だけでなく、実際に言語を使う能力の育成、人材養成、さらに、社会への貢献という目的も含まれると考えられる。したがって、コースの目的は、下記のように整理できる。

- |   |
|---|
| <ol style="list-style-type: none"><li>① 日本語でのコミュニケーション能力を養成する。</li><li>② 日本のことを知り、日本への理解を深める。</li></ol> |
|---|

### 3. 研究課題

コースの目的①としたコミュニケーション能力の養成を通して、学習者は目的②日本への理解を深めることができる。それにより、目的③学習者が成長し、日本語学習や SHC の事業への参加により得られた能力と知識を、ノボシビルスクのコミュニティのために生かせると考えられる。そのようなコースの目的のつながりを意識しながら、本研究で行うコースデザインの改善を考えた。特に「コミュニケーション能力の養成」という目的を中心にし、下記の研究課題を取り上げた。

- 1) 学習者が実際に日本語で行うコミュニケーション活動に基づくシラバスを開発する。
- 2) 新シラバスを教えるために適切な授業の枠組みを設計する。

### 4. 先行研究

上記の研究課題を進めるために、シラバスやカリキュラム開発に関わる先行研究、SHC のような一般成人を対象とした日本語のコース改善の実践研究、「JF 日本語教育スタンダード」（以下 JF スタンダード）を参考にした。

#### 4.1 外国語教育カリキュラム開発方法に関わる研究

Brown (1995) は、体系的な外国語学習カリキュラムの開発をニーズ分析、到達目標、評価、教材、教室活動、5 つの段階で提案した。カリキュラム作成は、一回性のものでなく、各段階が連続的に評価・改善しながら運営されているものであり、カリキュラムの目標には、Goals (学生がニーズに到達するために達成しなければならないこと) と Objectives (Goals を達成するために必要な知識や能力など) がある。教育が終わった際、Objectives を身につけたかどうか、評価することが必要である。さらに、より効果的な教室活動が、学習過程に大きな役割を果たすと述べている。そして、コースデザインの改善は各段階の評価に基づいて、連続的に行うべきである。筆者は、Brown のカリキュラム開発の手順を参考にし、ニーズ調査の結果に基づく学習の到達目標を考え、それを達成するために、言語項目をシラバスに取り入れ、それに相応しい教室活動の検討を行うことにする。

#### 4.2 コースデザイン及びシラバス改善の事例

先行研究で提案されているコースデザインの改善と見直しを見ると、2 つの考え方が見られる。荒川・和栗 (2007) は実際に使用している主教材を再構成し、不要と判断した項目をシラバスから外すことを挙げている。一方、久保田・奥村 (2002) は、学習者のニーズを分析し、必要となる機能や場面をシラバスに取り入れるという改善案を提案している。つまり、Brown (1995) が述べた教材の 2 つの使用法「Develop」(新しい教材を作る)と「Adapt」(既

に開発された教材をアレンジする)の観点を用いると、前者は「Adapt」に基づき改善を行い、後者は「Develop」の方向でコース改善を行おうとしている。

久保田・奥村(2002)は、ドイツ・ケルン日本文化会館の日本語講座の例を上げ、趣味や教養として日本語を勉強している一般成人には、話すことを第一に考え、機能面の必要性を感じている受講生が多いこと、初級段階では実際に日本語を使用する環境になくても、中級に進むにつれて、実際に日本語を使う環境が増えていく可能性が高いことについて述べている。本研究では、久保田・奥村(2002)同様に「Develop」のシラバス開発を行おうと考え、彼らが行った調査項目を参考にして、第2章で述べたようにSHCの学習者の日本語使用経験と学習希望を調べ、シラバスに生かすことにした。

#### 4.3 JF 日本語教育スタンダード

2010年に公開されたJFスタンダードは、欧州評議会による「言語のためのヨーロッパ共通参照枠」(以下CEFR)の言語教育政策の考え方に大きな示唆を受け、「相互理解のための日本語」の教育を提唱している。これは、日本で留学や仕事をしている在日本外国人だけではなく、海外の学習者も含めた、広い日本語教育の概念である。

JFスタンダードにおけるCan-doは、言語の熟達度を「～ができる」形式で示す文として定義されている。そして、「学習者の言語の熟達のある段階で持っている言語能力と可能な言語活動の例を示し、目安とするものである」(国際交流基金編2010:10)。Can-doは、大きく言語活動Can-do、言語能力Can-do、テキストCan-do、方略Can-doの4種類に分類される。さらに、言語活動Can-doは、産出(話す、書く)、受容(読む、聞く)、やりとり(口頭、文字)の6種類に分けられる。この言語活動のCan-doについての記述の仕方は、塩澤他(2010)で、以下のように要素別に例示されている。

活動Can-do=条件+話題/場面+対象+行動

Can-doの要素	内容	キーワード、例
条件	スピード、正確さ、易難度など	ゆっくり、はっきり、繰り返しながら
話題/場面	コミュニケーションの話題、場面	自分の興味のある事、旅行中
対象	受容的活動-インプット 産出・やりとり活動-アウトプット	手紙、プレゼンテーション、テレビのニュース、練習済みのプレゼンテーション
行動	何が出来るか	大まかに理解できる、簡単に説明する

本研究では、このJFスタンダードの言語活動Can-doを参考に、シラバスを開発することにした。その理由は、以下のようにまとめられる。

1) JFスタンダードの言語活動Can-doを使うと、目標とする授業毎のゴールが明確にされ、達成度や評価が透明になると考えられる。SHCのコースは、大学や義務教育機関と違い、単位を取れるテストや試験がない。趣味や教養として日本語を習っている学習者の中には、テストや試験を望んでいない者が多い。一方、学習開始後、日本語学習の難しさに直面し、意

欲を失う学習者が増える。各授業の目的を明確な言語活動 Can-do にすれば、達成度や学習評価が学習者に実感され、学習を続けるように動機付けができると考えられる。

2) JF スタンドアードの Can-do を通して、実際に使えることを習いたいという学習者のニーズに対応できる。ニーズ調査によると、学習者は、インターネットや交流事業の参加により、日本語を使うようになってきた。したがって、学習者の日本語使用の可能性を考え、授業で、より実用的な目的に到達することが必要である。

3) ロシアにおける他の外国語教育と日本語教育を関連付けることができる。近年、ロシアの外国語（英語、ドイツ語、フランス語）教育において、中等・高等教育機関では、CEFR の基準が使われるようになってきた。日本語教育にも CEFR に近い概念を取り入れることで、他の外国語教育と連携できるようになるだろう。

JF スタンドアードによると、言語熟達度は、A:基礎段階の言語使用者、B:自立した言語使用者、C:熟達した言語使用者の 3 つの大きな段階があり、各段階は、2 つのレベルに分けられて、全部で 6 つのレベルになる。

## 5. 研究課題 1 シラバスの開発

研究の課題 1 は、学習者が実際に行うコミュニケーション活動に基づくシラバス開発をすることだが、本研究では、JF スタンドアードを参考にし、言語活動 Can-do を中心としたシラバスを開発することにした。

SHC のコースは 3 年間のコースであるが、本研究のシラバスは 1 年目（学習時間 96 時間）のものにした。開発に当たって、A1 から始め、1 年間、96 時間の学習を終えると、学習者がどのレベルまで進めるか検討する必要がある。2 年目途中の学習者が旧 JLPT4 級を受験することから、外的基準として旧 JLPT4 級と現在の 1 年目に教えている言語項目および学習者のパフォーマンスを目安にし、JF スタンドアードのレベルに付き合わせた。その結果、シラバスのレベルは、A1~A2.1 に相当するものと見当をつけた。

塩澤他（2010: 31）は CEFR の Can-do を分析し、各レベルの特性を明確にし、A1 と A2.1 のキーワード及び特性を以下のように述べている。

A1 では、発話が直接自分に向けられて、非常にゆっくりと注意深く発音してもらえば、自分や身近な話題について、単純な句や文を使った非常に短い発話やテキストを理解できる。

A2 では、ゆっくりとはっきりと話されれば、身近な話題について予測可能な特定の情報を抜き出すことや簡単なやりとりができる。

A2.1 では、重要な点を繰り返してもらえらば、直接的なニーズに関わる、仕事を含む日常的で簡単な話題について、簡単な句や文を連ねてやりとりができる。

### 5.1 日本語使用経験及び学習希望調査

#### 5.1.1 調査項目の作成

本研究では、第 2 章で述べた事前調査の一部として、学習者の日本語使用経験及び学習希望調査を行った。調査項目は、ACTFL(全米外国語教育協会)の外国語能力基準の記述を元に、

機能・場面・話題を設定した久保田・奥村（2002）の 41 項目を参考にした。そして、ロシアの学習者の日本語使用環境と SHC の教師の意見も取り入れ、以下の要領で 75 項目を選定した（項目は、添付資料 2 を参照）。

学習者の日本語使用環境	項目の選定
コミュニケーションは、インターネットと SHC の交流事業への参加を通して行っている。	同じの言語行動には、2 種類の形態（口頭とメールで）を取り入れる。
日本語を使って仕事をし、日本へ留学に行く人は少ない。	「報告書や論文を書く」などの、使用可能性が高くない項目を取り入れない。
多くの学習者は日本へ行ける機会が少なく、ロシア国内で日本語を使っている。	場面は、「日本滞在中」から「ロシアで交流しながら」に変えた。
学習者は、伝統文化やアニメ、歌、漫画などに興味をもち、インターネットを使って、それについて読む。	項目に、その話題を取り入れる。 「読む、聞く」にあたっては、「小説、ニュース」ではなく、「歌、漫画」などにする。

項目は、話題・場面・機能に沿って、「自分・自己紹介」、「ホームビジット」、「交流事業の参加」、「趣味・興味」、「病気」、「エチケット・やりとり」の 6 つのカテゴリーに大きく分けられている。

各項目に関して、経験の有無と学習希望を尋ねた。75 項目以外に学習者が学びたい内容がある場合、自分で項目を加えるようにした。

### 5.1.2 調査結果の分析

調査のデータを集計し、使用経験と学習希望を学年別に表にまとめた。（データは本稿の資料 2 参照。）学年別のデータを比較すると、以下のようなことが明らかになった。

1) 1 年生の場合、使用経験有りの項目が 23 あり、「日本語で挨拶した」、「好き／嫌いを言った」などがある。学習希望の項目は 73 であり、そのうち、72 の項目について、半数以上が希望を示した。経験があり、希望をしない項目は、「挨拶を言う」、「簡単なお礼を言う」の 2 つであった。この 2 項目以外の経験有りの項目については、学習を希望している。つまり、これらの項目は経験したが、学習の必要性を感じたか、1 年生のレベルでは、まだ十分できなかったものであると考えられる。

2) 2 年生の場合、使用経験有りの項目が増え、67 になった。しかし、「病気」に関わる 3 項目全てが経験なしだった。さらに、「日本の交通機関について尋ねる」という項目は、1 名だけが経験有りと答えた。それは、来日経験に関係あると考えられる。経験有りの項目では「授業で」経験したと考えられる項目もある。例えば、全員が経験したと答えた「日本人の知り合いに自分の部屋について説明する」という項目である。希望の項目は、73 項目であり、1 年生と同じように「挨拶を言う」と「簡単なお礼を言う」に関しては学習希望が低かった。一方、それ以外の項目に関しては、希望を示した。各項目の学習希望の割合は異なっている。それは、学習者の自己評価のばらつきが出来たため、学習希望が異なるようになったと考えられる。学習項目の自由記述については、2 名が「インフォーマルなメールを始める/終わる」という項目を書き加えた。

3) 3年生の場合、経験有りの項目は73であり、経験の少ない項目は、「ロシアの銀行で日本人を手伝う」「日本の銀行でやり取りする」であった。さらに、「病状について説明する」の経験者が一人もいなかった。一方、64項目に関して、学習したいと答えた。さらに、その64のうち、41の項目に、学習希望を示した学習者が半分以上であった。10名が「フォーマルなメールを始める/終わる」という項目を学習希望項目に加えた。

調査を行った75項目について、学習者の経験と学習希望をまとめると、以下のようになる。

	1年生 (46名)	2年生 (21名)	3年生 (14名)
使用経験がある項目	23 (14は半数以上が経験有り)	67 (46は半数以上が経験有り)	73 (58は半数以上が経験有り)
学習希望	73 (72は半数以上が学習希望)	73 (56は半数以上が学習希望)	64 (41は半数以上が学習希望)
学習者による追加項目	なし	1	1

## 5.2 シラバスの開発過程

シラバス開発は、1) トピックの決定、2) SHC の Can-do の作成、3) 言語項目、日本事情、方略項目の採用の手順で行った。開発したシラバスは、A1は添付資料3、A2は添付資料4を参照。

### 5.2.1 トピックの決定

2.2 で述べたニーズ調査の結果によると、日本人の知り合いと話す話題は、「趣味、興味」42.9%、「日本について」25.4%、「自分のことについて」15.9%、「ロシアについて」15.9%である。これらのニーズに対応し、学習者がよく話す話題を、シラバスに取り入れる必要がある。調査の結果をもとに、学習者の日本語レベルと使用可能性を目安に考えた結果、JFスタンダードの15トピックは、以下のように複数の学年で取り上げられるのが適当と考えられる。

#	トピック	必要性	学年	#	トピック	必要性	学年
1	自分と家族	◎	1,2	9	人との関係	◎	1,2,3
2	住まいと住環境	○	1,2	10	学校と教育	△	1,2
3	自由時間と娯楽	◎	1,2,3	11	言語と文化	◎	1,2,3
4	生活と人生	○	1,2,3	12	健康	△	2,3
5	仕事と職業	△	1,3	13	自然と環境	△	2,3
6	旅行と交通	△	1,2	14	社会	△	2,3
7	買い物	△	1,2	15	科学技術	△	3
8	食生活	△	1,2				

表の記号：◎とても必要、○必要、△少し関わる必要がある。

1年生のシラバスに、4つのトピックを取り入れないことにした。その背景は、下記の通りである。「健康」に関しては、日本語使用経験の調査によると、「病気」というトピックに関わる会話の経験がほとんどないと明らかになった。ロシアに住んでいる学習者にとって、

病院、薬局での医者と患者のやりとりという場面で日本語を使う可能性はとても低いと判断して、取り入れなかった。「自然と環境」、「社会」、「科学技術」に関して、1年生には、語彙や表現の知識がまだ足りないため、2年生以上のシラバスに扱うことにした。

以上から、1年目のシラバスのトピックを①自分と家族、②住まいと住環境、③自由時間・娯楽、④生活と人生、⑤仕事と職業、⑥旅行と交通、⑦買い物、⑧食生活、⑨人との関係、⑩学校と教育、⑪言語と文化に選定した。

## 5.2.2 SHCのCan-doの作成

SHCのCan-do(言語活動)は、以下のように作成した。

### 1) 作成手順

①JFスタンダードとCEFRのA1～A2の活動Can-doを取り出し、選定したトピック毎に、レベル別に分類した。

②本稿の5.1で述べた日本語使用経験及び学習希望調査から明らかになった使用経験と学習希望の77項目(調査の75の項目と学習者が追加した2項目)を①に突き合わせ、調査の項目に関連しているCan-doを選んだ。

③日本語使用経験及び学習希望調査のデータの結果を参考にし、各レベルCan-do毎に必要な性を示す目安を付けた。目安は、◎とても必要、○必要、△あまり必要ではないとした。

④カリキュラムの時間数を考え、必要性の高いCan-doを取り上げ、内容を事前調査の結果と突き合わせながら、JFスタンダードの構成モデルに基づいて、SHCのCan-doを作成した。

### 2) SHC独自のCan-do

①ニーズ調査によると、学習者の主な日本語使用範囲は、ロシア国内であり、インターネットとSHCの交流事業である。そのため、話題と場面を変えた。(ノボシビルスク、インターネットで)

例：Can-do：「交流事業で、日本人の知り合いにあげたロシアの民芸品、ノボシビルスクの名物について、学習済の表現を使って、ゆっくりと説明ができる。」

②ニーズ調査によると、学習者の日本人の知り合いには、インターネットで知り合った人(実際に会ったことがない)、姉妹都市交流でノボシビルスクを訪れた人(ロシア滞在は短い)が多い。さらに、ロシアの若者は電話よりは、メールやチャットで交流している人が多いため、やりとりの形態はメールなどが多い。このことから、文字で行うやりとりに焦点を当てた。

例：Can-do：「既習の表現と仮名と易しい漢字を使い、相手と週末に会う時間と待ち合わせの場所をメールで決めることができる。」

③日本語使用経験及び学習希望調査によると、SHCの1年生の学習者の場合、新聞や広告、パンフレットが手に入らず、そこから情報を取り出すことが少ない。さらに、ロシアに住んでいる学習者の場合、「銀行、郵便局で書類などを日本語で書く」ことはないと思われる。そのため、読むCan-doは、「新聞や報告を読む」などを取り除き、「インターネットで探

す」、「メールを読む」にした。「書く」Can-do は、学習者が実際に行っている「クリスマスカードを書く」ことにした。

例：Can-do: 「Social サイトに、よく使われる言葉で、自分の個人的な情報（年齢、名前、趣味、何をしているか）を短く書くことができる」

④日本語使用経験及び学習希望調査の結果では、インターネットを通して、日本に関わる情報を日本語で読む/聞くというニーズもあるが、1年生の場合、インターネットで日本語の情報を読む/聞くことはまだ難しいと考える。したがって、1年目のシラバスにはインターネットで情報を探すという Can-do を取り入れた。

例：Can-do: 「好きなアニメや歌手について、キーワードを使って、情報やイラストを日本語のインターネットで探すことができる。」

⑤日本語使用経験及び学習希望調査によると、学習者は口頭と文字でのやりとりを行うことが多いことがわかった。したがって、シラバスに、やりとりの Can-do を多く取り入れることが必要であると考えた。

CEFR では、「自国にいる外国人観光客のための通訳」に関わる Can-do は、話し言葉での仲介活動に含まれている（吉島茂他 2004: 91）。仲介活動では、言語使用者は直接理解できない対話者間の仲介者として行動する。SHC の学習者がロシアで日本人を手伝う経験が有ることから、仲介 Can-do も必要であると思われる。1年生の場合、まだ日本語能力が十分ではないので、仲介 Can-do を1つだけ取り入れたが、2年生以上になると増やしていく必要があるだろう。

例：Can-do: 「日本人の知り合いの買い物を手伝うときに、買いたい物（値段、サイズ、色、売っている店）について、簡単な短い表現で、ゆっくりとはっきりと話し合うことができる。」

⑥日本語使用経験及び学習希望調査によると、ノボシビルスクの学習者の場合、日本語で書類や報告書などを書くことはほとんどないが、コンピュータで日本語を読んだり、書いたりするために、漢字を覚えることは大切である。そこで、筆者は「学習的な」Can-do を検討した。学習的な Can-do とは、実際に体験する可能性は高くないと思われるが、日本語で文字を書く練習のために行うものである。本シラバスには、学習的な Can-do が2つ（読む-1、書く-1）取り入れてある。

例：Can-do: 例：「札幌のニュースレターに、既習の語彙と簡単な表現で、ノボシビルスクの大学生（若い社会人）の一日について、短い文で、構成がやさしい記事を書ける。」。

本シラバスの項目を技能別に整理すると、以下のようになる。

レベル	読む	聞く	話す	書く	やりとり			合計
					口頭のやりとり	文字でのやりとり	仲介	
A1	0	1	0	1	6	4	0	12
A2.1	6	2	5	2	13	9	1	38

技能の数を見ると、50のCan-doの中で、「やりとり」が33であり、一番数が多い。口頭活動に関するCan-doは28（「聞く」・「話す」・「口頭でのやりとり」・「仲介」）であり、文字に関わるCan-doは22（「読む」「書く」「文字でのやりとり」）である。

### 5.2.3 Can-do で扱う言語項目、日本事情、方略の採用

Can-do を達成するために、シラバスには、言語項目（語彙・表現、文法・文型、文字）、日本事情、初級レベルに必要な方略を取り入れる必要がある。本シラバスでは、以下のように言語項目、日本事情、方略の項目を取り入れた。

#### 1) 言語項目

本シラバスの言語項目を考える際に、いくつかの問題に直面した。教科書では、特定の場面で特定の文型が教えられるが、実際のコミュニケーションの場合、必ずしもその教科書と同じ文型を使う訳ではない。したがって、どんな言語活動 Can-do に、どのような言語項目が必要か判断しにくい。本シラバスの言語項目は、現在使用している教科書『初級日本語』と富阪（1997）、筆者の経験を参考にし、取り入れた。富阪（1997）を参考にしたのは、場面と会話の参加者にバリエーションがあり、日本国内の留学生の生活に話題や場面が限られている『初級日本語』を補うことができるからである。富阪（1997）にある、Can-do のトピック、場面、行動などを目安にし、モデル会話を選び、『初級日本語』の言語項目を突き合わせた。さらに、SHC の交流事業で聞いた学習者と日本人の会話、学習者の発表を思い出しながら、自分の経験を踏まえ、前述の教科書になかったトピックや場面などに関わる Can-do の言語項目を決めた。

例：Can-do 「交流事業で、日本人の知り合いにあげたロシアの民芸品やノボシビルスクの名物について、学習済のレパートリーの表現を使って、ゆっくりと説明ができる」、語彙表現：もの、の、伝統、独特、ロシアの中心、白樺の皮、松の実、ミンクの飾り、グネット、手作り、手袋、マフラなど、文型：これはV（辞書形）Nです。これは、飾るものです。～時に…

一方、ニーズ調査によると、28.1%の学習者は、JLPT に合格したいと考えていることが明らかになった。そのため、本シラバスでは、旧 JLPT4 級の項目を積極的に取り入れた。その結果、本シラバスは、旧 JLPT4 級の言語項目をほとんどカバーしている。また、SHC の Can-do のために必要であると思われる、以下の例のような語彙・表現、文字については、JLPT になくても取り入れた。

例：Can-do 「札幌の観光地紹介のビデオを見ながら、名所や名物などの短い紹介を大まかに理解できる」、語彙表現：大通り、タワー、芸術の森、冬のオリンピック、サッポロビール、雪祭り、ウィンタースポーツ、スキー、スケート、スキージャンプ。

#### 2) 日本事情

コースの目的には、「日本のことを知り、日本への理解を深める」ということが挙げられている。活動 Can-do を達成するために、日本についての知識も必要であると考えられる。例えば「日本の大学生の生活を紹介する記事を読んで、内容を大まかに理解できる」という Can-do を達成するためには、日本の大学と大学の行事についての知識が必要である。そこで、それぞれの Can-do を達成するために、必要な日本語事情項目を適宜取り上げた。その時、筆者の教師としての経験及びロシアと日本の社会・文化の違いを目安にした。ニーズ調査によると、学習者はインターネットのリソースを通して、日本についての情報をロシア語・英

語で得ることができ、ある程度の知識を持っていると考えられる。しかし、シラバスに取り入れた日本事情の項目は、各 Can-do に合わせた項目であり、多くの情報の中で、その項目を意識的に扱うことにした。

### 3) 方略の項目

今までの授業では、教える文型を使用の観点で扱っていなかったため、方略と語用能力の項目は、意識しなかった。しかし、6. で述べる実験授業の際、SHC の学習者の場合、コミュニケーションで扱う方略をより意識的に授業に取り入れる必要があると明らかになった。国際交流基金 (2009) によると、CEFR では、A1 と A2 に関わる方略の項目は、産出的言語活動は 3 つ (F-087、F-094、F-095)、受容的言語活動は 1 つ (F188)、やりとりは 7 つ (F-351、F-352、F-353、F-360、F-363、F-364、F-365) である。その方略の項目には、キーワードやイラストのような補助となるものを活用し、意味を推測する、既習の表現を思い出し、表現できない時にジェスチャーなどを使ってみる、相手から助け船となる説明などを要求するという、限られている言語能力を支えるための項目が入っている。さらに、話を始める、発言権を取る、話を展開するという項目も入っている。CEFR の 11 の方略項目 (A1 と A2) を参考にして、Can-do の種類にしたがって、本シラバスに方略の項目を取り入れた。

## 6. 研究課題 2 新シラバスを教えるための授業の枠組みの設計

新シラバスを教えるための授業の枠組みを考え、実験授業を行った。

### 6.1 実験授業の概要

実験授業の目的： Can-do を目標にした、学習者同士のインターアクションと学習者同士の評価を取り入れた授業を実施し、下記のことを調べる。

1. 学習者は Can-do を達成することができるか。
2. Can-do を目的とした授業として、提案した設計は、学習者にとって学習しやすいか、また教師にとって教えやすいか。

到達目標 (活動 Can-do)：

実験授業①：日本人の知り合いを別荘に招待した時に、簡単な表現を使い、一緒に行く家族について短く話す。(一人で話す)

実験授業②：交流会などで、家族の人の名前や年齢、職業について、既習した簡単な言葉で、ゆっくり短い話しができる。(口頭のやりとり)

日程、対象者： 2回×90分、SHC 日本語講座 2年生 (学習時間は約 150 時間)、9名。

授業の教案は添付資料 5 を参照。

### 6.2 実験授業に関するデータ

データの種類	データの内容
2回の実験授業のビデオ	学習者の態度、活動の参加度、教師の指導の仕方、Can-do の達成度など。

参加した学生のインタビュー、アンケート 9名	Can-do を目標とした授業についての意見、学習者のインターアクションと学習者同士の評価を取り入れた授業についての意見
授業を見学した学習者のアンケート 6名	学習者の参加度、Can-do の達成度、インターアクションを取り入れた授業の感想、評価の方法、教師の指導。そのような授業は学習しやすいか。
見学した教師のインタビュー 7名	Can-do を目標とした授業は、教えやすいか。そのために何が必要か。教師の指導をどうすれば良いか。
見学した教師のメモ 5名	授業の進め方、学習者の行動、教師の指導などに関する意見

## 6.3 実験授業データの分析と考察

### 6.3.1 Can-do は達成できたか

実験授業では、目標とした Can-do を達成したかどうか評価するために、学習者の自己評価と相互評価を行い、授業を見学した教師に Can-do の達成について尋ねた。さらに、筆者は授業中撮影したビデオで、学習者の活動を観察した。Can-do の達成について、授業別にまとめると、以下のようになった。

1) 授業①では、「一人で話す」という Can-do を目標とした。学習者は、評価シートに活動中の話の内容と使われた言語項目についてメモを書き、評価した。学習者全員は、「達成した」と評価した。授業後のインタビューで、学習者は以下のような感想を述べた。

- 目標を達成したと思う。授業が始まった時に、黙って、話せなかった人は半分ぐらいいたが、最後に各学習者は、家族について、より長い話が出来た。(S、女性、25歳)
- 文型と語彙をどのように使うか分ったから、会話力がつき、達成したと思う。(S、女性、19歳)

教師は、インターアクションに活発に参加している学習者の様子で Can-do の達成が見られたと述べた。ビデオで撮影した学習者のパフォーマンスを観察した際、全員新しく習った語彙を使って、家族についての話をした。以上の3点から、授業①では、Can-do を達成したと考えられる。

2) 授業②では、「口頭のやり取りする」という Can-do であった。評価の方法は授業①と同じであった。Can-do の達成について学習者は、以下のような意見を述べた。

- 目標を達成したと思うが、話をどのように始めるか、分らなかった。家族に話が変わってから、スムーズに話し合った。(S、女性、23歳)
- 相手と家族について話し合っ、達成できたが、相手を意識しながら話すのは、難しかった。2人で、話をどのように始めたらいいか、考えた。(S、女性、25歳)

授業を観察した教師も、授業①よりは達成が難しかったと述べ、その理由について、以下の意見を述べた。

- 授業の活動だったが、学習者は、実際のように話し合ってみた。授業中、習った表現を使って、相手を意識しようとして、家族について話し合った。でも、話をどう始めるか、分からなくて、恥ずかしがっていた。(T、NT、5年)

ビデオで学習者のパフォーマンスを見ると、活動を始めた時、最初は黙って、話し始めなかったグループがいた。隣のグループが、どのように話しているか聞き、グループ同士で話し合い、やり取りを始め、話が家族の話題に展開した時、話が続いた。

以上から、授業②では、家族についてやり取りするという Can-do をある程度達成したと考えられる。授業①と比べると、達成度が低かったのは、話を始める／展開するという方略の知識の不十分さが影響を与えたと言える。

### 6.3.2 学習者にとって学習しやすいか、教師にとって教えやすいか

教師と学習者の意見では、Can-do の授業の場合、授業の目標が明確になり、その達成を目指して学習していることから、教えやすく学習しやすいことが明らかになった。具体的に学習者と教師に以下のような反応が見られた。

授業の目標が明確で、その目標のために、必要なことを考えて、教えることは教えやすいと思う。難しい文法を学習者にどこまで教えるか、どのように教えるか、いつも苦勞している。(T、NT、教師経験 5 年)

明確的な Can-do の目標の場合、全ての練習と活動はその目的を達成するものになり、いつそれを使うか、すぐ分かる。(S、女性、23 歳)

また、教師は、Can-do を達成するために、学習者がより活発に努力したことに気づき、「Can-do は実際的に使うものであり、動機付けにもなる」と述べた。

家族について話すことだったが、教科書に書いてある家族ではなく、「自分」に関係があつて、身近で、実際のコミュニケーションに役に立つから、学習者は集中して、勉強した。(T、NT、教師経験 2 年)

それに対して、学習者も同様の意見を出した。

Can-do を目的にしたら、あまり役に立たない文型や語彙を覚えなくてもいい。関係のない話題に時間をかけずに、一つのテーマに集中できる。(S、女性、19 歳)

さらに、授業の後半、学習者が目標を達成したかどうか、より客観的に評価できることから、教えやすいという教師の意見もある。

学習者が、学習項目を身につけたか、使うことができるか、その授業で客観的に確認できる。次の授業にも参考になる。有意義だ。(T、NT、教師経験 3 年)

### 6.3.3 その他の改善点

#### 1) 一般的なコミュニケーションの技術、知識

実験授業の際、以下のようなことがあった。授業②で、日本人の男性 (80 歳) の自己紹介のビデオを見て、その人に、家族についてどんな質問をすればいいか考える活動があった。ビデオの年配の日本人は息子と孫について話したが、妻について一言も話さなかった。ある学習者は、いきなり「奥さんは何歳ですか」という質問を考えたが、教師は、その質問について、学習者に考えさせた。学習者は、その人の年齢や状況をもう一度考え、奥さんのことを直接聞かず、別の聞き方にしたほうが良いと考えた。つまり、活動のとき、ある相手に、ロシア語の場合でも何でも話していいかどうか考えたことがなかった学習者にとって、考える機会になったと、授業を観察した教師が気づいた。SHC の学習者の約 80%は、10 代後半～20 代前半の若者であり、母語でもコミュニケーション経験がまだ浅い。学習者から、以下の意見もあった。

母語でのコミュニケーションを行う時、相手、場面、条件などに関して、考えながら話したことがあまりない。授業で、コミュニケーションをやってみて、初めて相手の事を考えた。(S、女性、19歳)

以上のように、実際のコミュニケーションに深く関わる Can-do の達成を通して、学習者は一般的なコミュニケーション技術を高める可能性があることが明らかになった。

#### 設計の留意点：

以上に述べた一般的なコミュニケーション技術や知識を高めるという視点から、Can-do の授業の設計の改善が見えてきた。教師は、コミュニケーションの経験の浅い学習者に、言語を問わず、コミュニケーションを意識させ、何に注意しなければならないか、気づかせることが必要である。

### 2) 新しい言語項目の指導について

今回の実験授業で使用した文法項目は、対象の学習者にとって既習だったため、多くの教師にとって、新しい項目の指導には疑問が残った。明確な文法の説明をしないと、学習者が混乱するというビリーフを持っている教師は、Can-do を目標とした授業はまとめの授業として行った方がいいと述べた。一方、学習者は、以下のような意見を述べた。

- 普段、教師からの説明がもっと多いが、その文法をいつ使うかよく分からない。(S、女性、26歳)
- いつも教師からの説明がもっと多い。でも、教師が全部教えてくれると、自分で調べたい気持ちがなくなり、勉強の刺激もなくなる。(S、女性、19歳)

Can-do の授業の場合、学習者が受動的に授業を受けるのではなく、自力で考え、目標到達に努力することが大切である。したがって、以前の授業と異なり、教師による説明は、「一方的に教える」から「動機付けを与える」、「考えさせる」ものになってしまう。観察した教師は、学習をサポートしている教師の役割を高く評価した。

学習者は自分を分析するヒントが得られた。授業中、学習者が話せる時間がたくさんあった。(T、NNT、教師経験5年)

#### 設計の留意点：

Can-do を目標とした授業でも、新しい言語項目の説明を授業に取り入れるが、その説明は、一方的なものではなく、学習者に気づかせ、自ら文法や文型の意味や規則などを発見し、理解する方法を心がける。

### 3) 新しい授業に対する教師と学生の意識改革

#### ①学習者同士の評価について

実験授業中、Can-do 達成の評価をする方法として、学習者の自己評価・相互評価を使った。以前の授業では、教師が一方的な評価を行い、学習者による評価はなかった。実験授業で学習者と教師は、評価について考える機会を得た。教師は、以下のような意見を述べた。

- そのような評価の方法は、SHC の授業で使用されていないから、教師にとっても、学習者にとっても分かりにくい。みんなが慣れれば、効果が現れると思う。(T、NNT、教師経験2年)
- 相手によく聞かせるために、とてもいい方法である。(T、NNT、教師経験3年)

学習者にとって、自己評価と相互評価は、新しい方法であったが、効果のある方法として受け入れられた。

他人を評価するときに、人を、まず自分と比べる。そうすると、自分の長所と短所、自分の間違いがよく分かる。それは、本当の評価になる。先生は、間違いを直したり、アドバイスをしたりしてくれれば、十分である。(S、男性、21歳)

一方、以下のような意見もあった。

評価は教師だけがするべきだと思う。学習者同士は、いろいろな関係があるから、客観的に評価できない。(S、女性、24歳)

#### 改善案：

学習者同士の評価に効果的に取り組むために、教師にも学習者にも自己評価や相互評価の意義を説明する必要がある。授業を継続的に行い、次の授業で前の授業の評価の結果を学習者に振り返らせたり、学習の進展や技能の向上を見せたりすることにより、学習者が協働的に評価を行うようになると思われる。

#### ②教室活動（学習者のインターアクション）について

実験授業中、Can-do を練習するための活動として、グループ活動を取り入れた。インターアクションのある活動について、教師と学習者に質問したところ、教師は、全員インターアクションの効果を指摘した。

学習者同士は、お互いに助けたり、コメントをしたりして、活発に参加し、学習者もインターアクションへの参加態度を高く評価した。学習者も「以前の授業で、2-3 人の最も上手な学習者が良く活動に参加しているが、ほかの人は黙っている。今回、9 人の学習者がいたが、全員よく活動していた。(T、NNT、教師経験2年)

一方、学習者は、日本語運用力が自分と大きく差がある学習者との活動が役に立たないかもしれないと不安を持ったようである。

その活動は、いつも時間がかかるし、学習者のレベルが異なっているから、集中できないし、勉強にならない。(S、女性、26歳)

#### 改善案：

Can-do を目標とした授業の中で、学習者が互いに学び合う活動を行うと共に、学習者の協働学習に関する理解を深めることが必要であると言える。

以上のように、研究課題 2「新シラバスを教えるために適切な授業の枠組みを設計する」については、ある程度 Can-do を達成できたと言える。また、「学習者と教師の反応から、学習しやすい」、教えやすい授業の枠組みかどうかについては、教師と学習者の意見から、おおむね適切であることが明らかになり、2 つの改善点が見えてきた。1 つ目は、学習者の一般的なコミュニケーションの技術を高めるように、教師が言語に関係なく、コミュニケーションについて考えさせること。2 つ目は、新しい言語項目を導入する際、学習者に気づかせ、考えさせる方法で行うことである。また、実験授業により明らかになった評価に関する教師の疑問とインターアクションにおけるレベル差に関する学習者の疑問から考えると、自己・相互評価と協働活動に関して、教師と学習者の理解を深める対策が必要だとわかった。

## 7. まとめと今後の課題

本研究では、一般成人を対象としたコースデザインの改善を目指し、第1段階として、SHCの学習者や機関、教師に対してニーズ調査を実施した。調査によって、学習者は、インターネットやSHCの交流事業への参加を通して、日本語をよく使用していること、日本語使用環境の特性、日本人とのコミュニケーションする時の話題などが明らかになった。さらに、教師は、現在のコースは、文型を中心とした学習で、「日本語を使う」という観点からの教育が不十分であるという意見を持っていることが明らかになった。一方、SHCを運営しているノボシビルスク市は、日本語教育に力を入れ、日本語を使用し、日本についての知識を持つ、優秀な人材を育てることを期待していると分かった。このニーズ調査の結果から、コースの全体の目的を、①コミュニケーション能力の養成と②日本への理解、③学習者が自己成長し、授業で得た能力と知識をノボシビルスクのコミュニティのために生かすこと、3つであると確認した。

コースの改善のために、2つの研究課題(1)学習者が実際に日本語で行うコミュニケーション活動に基づくシラバス開発をすること、(2)新シラバスを教えるために適切な授業の枠組みを設計することを取り上げた。

研究課題(1)に当たり、ニーズ調査に加えて、日本語使用経験及び学習希望を明らかにするための調査を行った。先行研究とこれらの調査の結果とJFスタンダードを参考にして、3年コースの最初の1年間96時間のCan-doシラバスを開発した。

研究課題(2)のために2つの実験授業を行った。そして、今回考えた授業の枠組みは適切かどうか、Can-doの達成と、学習者にとっての学びやすさ、教師にとっての教えやすさをもとに検討した。2つの実験授業でいずれもCan-doの達成が確認され、学習者にとっても、教師にとってもおおむねよい授業になったという反応が得られたが、コミュニケーションと言語項目の教え方に改善点が見つかった。

本研究は、SHCのコースデザインの改善として、Can-doを目標としたシラバスとそのシラバスを教える授業の設計案を開発したが、今後の課題として、以下が明らかになった。1) SHCのCan-doシラバスを教えるために、適切な教材を開発する、2) コースにおいては、学習者同士だけでなく、教師による評価の方法を考え、中間テスト(筆記・口頭)や終了試験などを開発する、3) SHCのコースの改善を継続的に行うことである。体系的な改善のために、コースの評価に関わる資料を長期的に収集し、分析を行いたい。今後、計画(Plan)→実施(Do)→評価(See)というサイクルに従い、SHCのコースを実施し、評価し、その評価の結果に基づき、改善を行うシステムを作っていくことを検討する。

Can-doを目標とするコースでは、教育過程における学習者の役割が高まり、学習者は、受動的に授業を受けるのではなく、学習者同士のインターアクションを通して学び、評価を行う。したがって、学習者が学習過程について教師と一緒に考えることは、大きな意義がある。

今後の課題の解決については、SHC の教師のみならず学習者の協力を得て、ともに考え、取り組んでいきたい。

## 参考文献

- (1) 荒川友幸・和栗夏海 (2007) 「カザフスタンにおける日本語初級カリキュラム—日本人材開発センターの新しい試み—」『国際交流基金日本語教育紀要』1、国際交流基金、123-134.
- (2) 久保田美子・奥村三菜子 (2002) 「ケルン日本文化会館日本語講座受講者に対するアンケート調査結果報告」『日本語国際センター紀要』12、35-50.
- (3) 国際交流基金 (2006) 『すぐに使える「レアリア・生教材」アイデア帖—日本語教師必携—』スリーエーネットワーク
- (4) 国際交流基金・日本国際教育支援協会 (2006) 『日本語能力試験出題基準』凡人社
- (5) 国際交流基金 (2009) 「V-4 ケルン日本文化会館日本語講座」『JF 日本語教育スタンダード試行版』国際交流基金、209-233.
- (6) 国際交流基金 (2010) 『JF 日本語教育スタンダード 2010—利用者ガイドブック—』国際交流基金
- (7) 国際交流基金日本語国際センター「JF 日本語教育スタンダード」  
<<http://www.jfstandard.jp>> 2010年8月19日参照
- (8) 塩澤真季・石司えり・島田徳子 (2010) 「言語能力の熟達度を表す Can-do 記述の分析—JFCan-do 作成のためのガイドライン策定に向けて—」『国際交流基金日本語教育紀要』6、国際交流基金、23-39.
- (9) 東京外国語大学留学生日本語教育センター (1994) 『初級 日本語』凡人社
- (10) 富阪容子 (1997) 『なめらか日本語会話』アルク
- (11) 福島青史・イヴァノヴァ, マリーナ (2006) 「孤立環境における日本語教育の社会文脈化の試み—ウズベキタン・日本人材開発センターを例として—」『国際交流基金日本語教育紀要』2、国際交流基金、49-64.
- (12) 吉島茂・大橋理枝他訳・編 (2004) 『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』朝日出版社
- (13) Brown J.D. (1995) *The elements of language curriculum -A systematic approach to program development-*. Massachusetts: Heinle & Heinle Publishers.

資料1 学習者への調査の項目 (回答者81名、※2つまでの回答が可能な質問)

1 学習者のフェースシート

1 性別	①男性 ②女性
2 所属クラス	①1年生 ②2年生 ③3年生
3 年齢	①15-19 ②20-25 ③26-29 ④30歳以上
4 職業 ※	①中高生 ②大学 ③専門学校の学生 ④大学院生 ⑤会社員 ⑥主婦 ⑦その他
5 専門	①IT ②国際関係 ③美術 ④経済 ⑤マス・メディア ⑥その他
6 訪日経験(回数)	①0回 ②1回 ③2回 ④3回以上
7 日本滞在期間	①2週間以下 ②2週間以上 ③1か月以下 ④1か月以上 ⑤3か月以下 ⑥3か月以上 ⑦6か月以下 ⑧6か月以上
8 日本語学習期間	①1年以内 ②2年以内 ③3年以内 ④3年以上
9 日本語学習機関 ※	①SHC ②中等学校 ③大学 ④外国語学校 ⑤日本の機関 ⑥その他

2 学習の目的と動機、日本や日本語への関心について

1 日本語を習い始めたきっかけ ※	①日本への興味 ②日本人の友達がいる ③交流事業の参加 ④友達の誘い ⑤両親の希望 ⑥仕事の関係 ⑦その他
2 SHCのコースに入った時の日本語学習の目的 ※	①日本人と交流したい ②日本文化、日本事情を知りたい ③日本語能力試験に合格したい ④日本へ旅行したい ⑤日本に留学したい ⑥日本で働きたい ⑦その他
3 現在、日本語を習って何をしたいか ※	①日本人と友達になりたい ②日本のことを理解したい ③日本語でのコミュニケーション能力を高めたい ④ロシヤ人同士の友達を作りたい ⑤日本語の知識を高めたい ⑥その他
4 日本語を習って、何を得たか、何を習ってよかったことは何か。(自由記述)	
5 日本、日本文化への興味を具体的に教えてください ※	①経済 ②伝統文化 ③アニメ/マンガ ④音楽 ⑤デザイン、美術 ⑥スポーツ、武道 ⑦食文化 ⑧文学 ⑨その他
6 日本、日本文化のついての知識をどこから得るか ※	①インターネット ②本、雑誌 ③日本人の知り合い ④日本語教師、授業 ⑤その他

3 日本語学習について

1 何年間、日本語を勉強する予定か	①1年以下 ②1年間 ③2年間 ④3年間 ⑤3年以上
-------------------	----------------------------

2 週何回なら休まずに通えるか	①1回 ②2回 ③3回以上
3 自習可能な時間	①毎日1時間以上 ②週4時間 ③週2時間 ④週1時間 ⑤なし
4 日本語の学習で何が一番難しいか ※	①音声 ②文法 ③語彙を覚える ④漢字を覚える ⑤読解 ⑥聴解 ⑦会話 ⑧作文 ⑨その他
5 日本語の中で何を中心として学びたいか ※	①音声 ②文法 ③語彙を覚える ④漢字を覚える ⑤読解 ⑥聴解 ⑦会話 ⑧作文 ⑨その他
6 今の授業に何が足りないか ※	①音声 ②文法 ③語彙を覚える ④漢字を覚える ⑤読解 ⑥聴解 ⑦会話 ⑧作文 ⑨その他
7 JLPTを受けたいか	①既に受けている(受験した級、合格(○)、不合格(×)) ②受けた(何級が受けたいか、書いてください) ③受けたくない
8 授業料は適切か	①適切 ②不適切 ③不適切であれば、いくらぐらいがいいか

4 日本語を使えることについて (日本語の授業以外)

1 教室、宿題以外の使用頻度	①毎日 ②週1回以上 ③1~5回 ④3ヶ月1~5回 ⑤使っていない
2 どこで日本語を使っているか ※	①日本語のインターネットを読む ②チャット、メールでSHCの交流事業で ③日本人の友達と会うとき ④アニメ、ドラマを見る ⑤日本の歌を聴く ⑦日本人と電話で話す ⑧その他
3 交流する日本人がいるか 交流する相手がいる人は3-1、3-2、3-3、3-4に答えてください。相手がない人は、4の質問に進んでください。	①いる ②いない
3-1. 交流する日本人はどんな人か ※	①インターネットの知り合い ②実際に会って知り合いになった日本人の教師 ④その他
3-2. 日本人といいつから交流を始めたか	①日本語を習う前に ②学習1年目 ③学習2年目 ④学習3年目
3-3. 日本人との交流形態 ※	①インターネット ②個人のお付き合い ③SHCの事業 ④その他
3-4. 日本人とよく話す話題 ※	①ロシヤのこと ②日本のこと ③自分のこと ④趣味、興味 ⑤その他
2、3つの具体的な例を書いてください。(自由記述)	
4 日本語でよく読むものの ※	①小説 ②マンガ ③WEBサイト ④日本の音楽について ⑤日本の芸能について ⑥スポーツ、武道について ⑦ニュース ⑧その他

資料2 学習者の日本語使用経験及び学習希望調査

#	項目/記号: ◎久保田・奥村(2002)、△SHC、■半分以上の回答率	種類	1年生		2年生		3年生		
			経験	希望	経験	希望	経験	希望	
1	◎ 一日中、どんな時でも日本人と会ったら、挨拶できる	口頭	100%	0%	100%	0%	100%	0%	自分・自己紹介
2	◎ 日本人に自分のことについて簡単な話ができる	口頭	93%	100%	100%	62%	100%	14%	
3	◎ 日本人の知り合いに自分の仕事/大学(学校)について簡単な説明ができる	口頭	0%	100%	100%	76%	100%	21%	
4	△ 日本人の知り合いに自分の部屋について説明できる	口頭	0%	83%	90%	86%	64%	93%	
5	△ 日本人の知り合いにロシア料理について説明できる	口頭	0%	100%	10%	90%	21%	86%	
6	◎ 日本人の知り合いに自分の家族を紹介できる	口頭	0%	100%	19%	43%	21%	0%	
7	◎ 日本人の知り合いに自分の好きな食べ物について説明できる	口頭	0%	100%	0%	100%	29%	100%	
8	◎ 日本人の知り合いに日本料理について質問して、答えを理解できる	口頭	0%	100%	38%	100%	64%	100%	
9	◎ 日本人の知り合いにロシアについて簡単に説明できる	口頭	0%	100%	71%	100%	93%	64%	
10	◎ 日本人の知り合いにロシア文化について簡単に説明できる	口頭	0%	100%	43%	95%	64%	71%	
11	◎ 日本人の知り合いに自分の町について簡単に説明できる	口頭	0%	100%	67%	100%	93%	100%	ホームビジット
12	◎ 日本人の知り合いに日本について尋ねて、説明を理解できる	口頭	0%	100%	81%	95%	100%	79%	
13	△ 日本人の知り合いがロシアで買い物することを手伝うことができる	口頭	0%	100%	43%	90%	86%	64%	
14	◎ 日本のお店で、自分で買い物をする時に、必要なやり取りができる	口頭	0%	100%	10%	100%	29%	43%	
15	◎ 日本人の知り合いがロシアの銀行で両替する時の手伝いができる	口頭	0%	98%	14%	100%	14%	100%	
16	◎ 自分で日本の銀行で両替をする時に、やり取りができる	口頭	0%	100%	0%	100%	7%	86%	
17	◎ ロシアのレストランで、日本人と店とのやり取りの手伝いができる	口頭	0%	100%	71%	90%	86%	64%	
18	◎ 日本のレストランで、自分で料理の選択、注文のやり取りができる	口頭	0%	100%	14%	86%	29%	86%	
19	◎ 日本人の知り合いにイベントの時間と会場を確認できる	口頭	0%	93%	86%	86%	71%	79%	
20	◎ 日本人の知り合いにイベントの内容を尋ねたり、説明したりできる	口頭	0%	100%	71%	81%	100%	64%	
21	◎ 日本人に、ロシアの交通機関の乗り方について説明できる	口頭	0%	78%	24%	76%	57%	50%	交流事業への参加
22	◎ 日本の交通機関の乗り方を尋ね、説明を理解できる	口頭	0%	98%	5%	95%	14%	93%	
23	△ 日本人の知り合いに、自分の趣味について簡単に話せる	口頭	67%	100%	90%	100%	100%	100%	
24	△ 日本語のインターネットで、自分が興味を持っている情報を探せる	文字	0%	100%	62%	100%	79%	100%	
25	△ 日本語のインターネットで自分が興味を持っている情報を読める	文字	93%	96%	100%	76%	100%	50%	
26	◎ 日本人の知り合いに、映画や本について自分の感想を言える	口頭	4%	100%	67%	100%	57%	100%	
27	◎ 日本語のアニメやドラマの内容を大体理解できる	口頭	0%	100%	100%	76%	100%	43%	
28	△ 日本語の歌の内容を大体理解できる	文字	0%	100%	67%	86%	64%	50%	
29	△ 日本語の漫画の内容を大体理解できる	文字	0%	100%	86%	100%	100%	100%	
30	△ 日本人の知り合いに、日本文化について質問して、日本人の説明を理解できる	文字	80%	100%	86%	100%	100%	100%	
31	△ 日本人の知り合いに、スポーツや武道について質問して、答えを理解できる	文字	76%	100%	90%	95%	100%	71%	趣味・興味
32	◎ 日本人に自分の病状について簡単に説明できる	口頭	0%	59%	62%	43%	50%	36%	
33	◎ 日本人の知り合いに病状について尋ねたり、相談したりできる	口頭	0%	78%	0%	71%	7%	57%	
34	△ 日本人の友達に簡単に御礼を言える	口頭	0%	28%	0%	81%	0%	64%	
35	△ お世話になった日本人の知り合いに丁寧に御礼を言える	口頭	100%	0%	100%	0%	100%	0%	
36	◎ 交流会やパーティーでスピーチができる	口頭	0%	80%	33%	62%	64%	50%	
37	◎ 小さな件で簡単に謝ることができる	口頭	0%	93%	100%	95%	100%	86%	
38	◎ 約束を守らないこと、遅刻などのトラブルで丁寧に謝る事が出来る	口頭	100%	78%	100%	29%	100%	0%	
39	△ 日本人の知り合いに誕生日や出来事のお祝いが出来る	口頭	0%	91%	43%	67%	71%	57%	
40	△ 日本人の知り合いと待ち合わせの時間と場所を決められる	口頭	100%	87%	100%	86%	100%	21%	
41	△ 日本人の知り合いと待ち合わせの時間と場所を決められる	文字	93%	98%	100%	62%	100%	50%	病気
42	◎ 自分がほしいメールアドレスか電話番号を尋ねられる	口頭	0%	100%	95%	24%	93%	14%	
43	◎ 日本人の知り合いにそこで禁止されていることを言える	口頭	0%	100%	57%	43%	86%	36%	
44	△ 日本人の知り合いに誘うことができる	口頭	9%	83%	86%	67%	93%	14%	
45	◎ 日本人の知り合いにそこで禁止されていることを言える	文字	0%	85%	14%	81%	43%	29%	
46	△ 日本人の知り合いに誘うことができる	口頭	0%	91%	86%	90%	93%	64%	
47	△ 日本人の知り合いや目上の方をどこかへ招待できる	口頭	0%	100%	95%	67%	100%	14%	
48	◎ 日本人の知り合いの助けを頼むことができる	文字	0%	96%	71%	33%	93%	21%	
49	◎ 日本人の知り合い、目上の方の協力をお願いできる	口頭	0%	98%	95%	95%	93%	43%	
50	◎ 日本人の知り合い、目上の方の協力をお願いできる	文字	0%	98%	24%	95%	43%	21%	
51	△ 話の中で、日本人の友達の誘いを断ることができる	口頭	0%	100%	24%	100%	100%	36%	エチケット・やりとり
52	△ 日本人の知り合い、目上の方の誘いを断ることができる	口頭	0%	100%	0%	100%	100%	50%	
53	◎ したいこと/してほしいことを言える	口頭	0%	100%	0%	100%	0%	50%	
54	◎ 理由を尋ね、その説明を理解できる	口頭	0%	100%	100%	100%	100%	100%	
55	◎ 理由を尋ね、その説明を理解できる	口頭	0%	96%	10%	100%	43%	93%	

資料3

A1 シラバス

8回 90分 (12時間)

※は、それに基づき、Can-doを作成した事を示している。

#	活動の種類	SIC Can-do (条件/話題・場面/対象/行動)	日本事情	語彙：動詞	語彙：名詞	語彙：形容詞	語彙：その他	文字	文型	方略	参考のCan-do
1	人との関係 (口頭)	ゆつくり、適切で基本的な挨拶を言う。	挨拶の仕方、おじぎ				おはようございます、こんにちは、こんばんは、さようなら、			意味を理解できないと言うことが出来る。	CEFR F-224※ JF※
2	学校と教員 (聞く)	授業中、はっきりと話せば、学習に関わる主な指示を理解できる。					書いてください、聞いてください、座ってください、いい、たってください、読んでください。			意味を理解する時に、助け舟(ジェスチャー)に注目	JF※
3	自分と家族 (口頭)	暗記した表現と語彙を思い出しながら、自分の名前、職業などを言う。相手の名前を聞ける。はっきり簡単な言葉で言われた答えなら、理解できる。	日本の紹介する時のマナー	です	名前、ロシア人、大学生、会社員、外国語：英語、ロシア語、日本語など		日本語が少し出来た？ お名前、ロシア語が出来ますか？ どうぞよろしく。	人	私はです。 お名前は？ ロシア語が出来ますか？	意味を理解できないと言いうことが出来る。	JF※
4	自分と家族 (文字)	日本人の知り合いが漢字で書いた名前に読み方をひらがなで書くことが出来る。	日本人の名前の構成				ひらがな			意味を理解する時に、助け舟(辞書、外来語)に注目	CEFR F-128※ 学習
5	人との関係 (口頭)	既習表現を使い、ゆつくり、自分の誕生日を伝える。知り合いに誕生日を聞ける。はっきりと言ってくれた答えなら、理解できる。	西暦と昭和、平成		何、誕生日、月と日にちの名前		いつ、敬語：1～31、おめでどうございます。		誕生日はいつですか？ ～月～日です。	意味を理解できないと言いうことが出来る。	JF※
6	人との関係 (文字)	既習の表現と文字を思い出し、友達の名刺で書ける。	誕生日の祝いの方				年、月、日				SHC
7	人との関係 (口頭)	相手の立場と物かどうかが、ゆつくり答えられる。繰り返しながら、相手の持ち物を確認できる。	日本語における人物の扱い方	です/ありません	学習に関わるもの：本、電子辞書、ノート、鉛筆、ペンなどだれ		への、私の、佐藤さんの、これはこれのですか？ これは、私のです/ではありません。			意味を理解できないと言いうことが出来る。	CEFR F-314※
8	人との関係 (口頭)	相手に暗記した表現を使い、ゆつくり言いたがる、お茶などのこちらを勧めることができる。相手に話して聞ける。相手からお茶やお菓子などをいただいた時に簡単に簡単なお礼を言う。	洋菓子と和菓子の文化		食べ物/飲み物：お茶、チョコレート、オレシ、カフェオレ、クッキー、ケーキ		どうぞ、ありがとうございます。		～とどうぞ	意味を理解できないと言いうことが出来る。	JF※、 CEFR F-145※
9	住まいと住環境 (文字)	単純な言葉を使い、時々、電子辞書を見ながら、相手に簡単な説明をひらがなでカタカナで書く。	町の場所：オビ川、駅、劇場、サウナ、スーパー、コンビニ、北極道、レンタカー、ショップ、レストラン、ホテル、バー		町の場所：オビ川、駅、劇場、サウナ、スーパー、コンビニ、北極道、レンタカー、ショップ、レストラン、ホテル、バー		川、大、小、カタカナ		これは、Nです。 Nは、とてもAです。 Nは、あまりA、ないです。	意味を理解する時に、助け舟(辞書、外来語)に注目	SHC
10	食生活 (口頭)	自分の好きな食べ物やゆつくり言える。相手に簡単な表現を使いながら好きな食べ物について聞ける。相手がはっきり話してくれたら、繰り返しながら、答えを理解できる。	日本の食文化	食べます/食べません/飲みます/飲みません	食べ物/飲み物：肉、魚、パン、ご飯、ラーメン、サラダ等、牛乳、お酒、ビールなど		好き、嫌い、よく、あまり		Nが好きですか。 はい、好きです。よく食べます。 Nが好きですか。 いいえ、嫌いです。 あまり飲みません。	交流会の場面を考えて、日本人の知り合いと会話を始める。	JF※
11	自分と家族 (書く)	単純で既習の言葉を使って、ブログで、3つ以上のバーターを取り上げ、自己紹介をひらがなでカタカナで書くことが出来る。		既習の語彙+α	既習の語彙+α		そして	かな	～です。 ～でした/ではありませんでした/～として	自分のレバートリーの中から表現を思い出して、使ってみる。	CEFR F-332※
12	自分と家族 (文字)	ネットの日本人の知り合いが易しい漢字とかなで書いた自己紹介をゆつくり繰り返しながら、読める。名前、年齢のようだが、とても基本的なことを理解できる。		既習の語彙+α	既習の語彙+α		そして	かな	～です。 ～でした/ではありませんでした/～として	意味を推測しながら、助け舟を使って理解する。	JF※

資料4

A2 シラバス 56回 90分 (84時間)

※は、それに基づき、Can-doを作成した事を示している。

#	トピック	活動の種類	SHC Can-do (条件/話題・場面/対象/行動)	日本事情	語彙：動詞	語彙：名詞	語彙：形容詞	語彙：その他 (表現一暗記したもの)	文字	文型	方略	参考のCan-do
1	自分と家族	産出 (書く)	Socialサイトに、よく使われる言葉で、自分の個人的情報(年齢、名前、趣味、何をしているか)を短く書くことができる。		仕事をし、勉強する	数字、年齢の言い方、～年、生、銀行、学校、病院、映画、スポーツ (種類)、音楽 (種類)	面白い	よろしくお願ひします。	学、生、才、数字：～十、名前、会社	NIはN2です。仕事をしています。Nで (場所)	話題の展開。表現方法を考える。	JF※
2	自分と家族	やりとり (口頭)	日本人の知り合いと対面のとき、簡単な表現を使い、自分の情報(年齢、名前、趣味、職業)をゆつくり言える。日本人に名前などを聞き、は、理解する。	日本人とロシアン人の名前の違い、紹介、名刺交換のマナー	住んでいる	学生、会社、仕事、大学	楽しい	どこ、何、そうですか、分かりますか、		を、日本語を勉強しています。疑問文：お仕事は、何で勉強していますか。どこで勉強していますか。：家族と	答権を取る。話題の展開、表現できない時にジェスチャーなどを補う。	JF※
3	自分と家族	やりとり (口頭)	交流会などで、相手に家族の人の名前や年齢、職業について、既習した簡単な言葉で、ゆつくり短い話し合いができる。		やせている、太っている、かける、	家族の人の名前、職業の言い方。背、目、鼻、足、めがね	性格：優しい、まじめ、外見：背がたか、わい、髪が長い、か、わい、ハンサム、元氣な、上手、下手	そうですか、大変ですね、良いですね、私と同じです、ロシアの場合		NIは、N2がAです。Nで、Aです。	話題の展開。表現できない時にジェスチャーなどを補う。	CEFR F307※
4	自分と家族	産出 (話す)	日本人の知り合いを別荘に招待した時に、簡単な表現を使い、一緒に行く家族について短く話せることができる。		いる	父、母、おばあさん、おじいさん、兄弟、姉妹、兄、妹、ペット、犬、猫、顔、背、目、鼻、足、めがね	多、少ない、にぎやか、うるさい、静か、きれい、	たくさんあります。昔、今、あまり、大きな数字：百、千、万、いつ、どこ、どんな、や、教えてくださいませんか	父、母、男、女、目、耳、鼻、足、手、	かいます。NIは、N2がAです。～ています。Nだ/ではない/だった/ではなかった。	話題の展開、表現できない時にジェスチャーなどを補う。	CEFR F-332※
5	住まいと住環境	やりとり (文字)	簡単な表現や写真などを使い、自分が住んでいる地域についての基本的な情報をメールで短く説明できる。相手の簡単な言葉とかなど易しい漢字で書いてくれたら、地域についての説明がうまく理解できる。	都道府県	ある、建てる、	町、スーパー、喫茶店、道、広場、公園、喫茶店、スタジアム、噴水、教会、アパート、一軒、田舎			昔、今、始、多、文化、人口	たくさんあります。疑問詞も、か、V/ANになります。疑問文、Nはどこにありますか、	話題の展開。表現できない時にジェスチャーなどを補う。	JF※
6	住まいと住環境	産出 (話す)	日本人の知り合いに、写真や絵葉書を見せながら、事前に準備したメモを送った、簡単な言葉でプレゼンテーションができる。		始まる、建てる、オープンする、増える	人口、成長、橋、建設、科学アカデミー、研究所、経済、文化、工業、水力発電所、ダム、オビ洞、ビーチ	長い、短い、速い、遅い、広い、	100年前、最近、この5-6年 (期間の言い方)	始、長、多、少、文化、人口	昔～でしたが、今は、～です。Vてから	話題の展開。表現できない時にジェスチャーなどを補う。	JF※
7	自由時間と娯楽	やりとり (文字)	知り合いに、メールでSHCの写真を送って、既習の言葉を使い、写真のコメント、センターの紹介を短くかなど易しい漢字で書ける。	和室と和風のインテリア	ある、いる、遊ぶ、かざる	和室、着物、ひな壇、ホテル、ロビー、姉妹部巾、かけし、お稽古、庭	近い、きれいな、便利、静か	一つ～十、数詞：人、階	左、右、真中、前、後ろ、中	Nが三つあります。ここは、ANはNです。NIは、ANです。	話題の展開。表現できない時にジェスチャーなどを補う。	SHC
8	自由時間と娯楽	やりとり (口頭)	簡単な表現を使い、自分の興味についてゆつくり話せる。知り合いを趣向について聞き、ゆつくり、はっきりとした答えなら、理解できる。	若者の文化	ある、持っている	趣味、映画、音楽、読書、武道など本、雑誌、毎 (朝、日、晩) 毎週、毎年、	楽しい、つまらない、高い、安い	NIについてね、よ、わ		私は、NIに興味があります。私 (私)も。V現在・過去形+N	話題の展開、表現できない時に、他の方法を補う。分からない時に、説明を求める。	SHC
9	自由時間と娯楽	受容 (読む)	好きなアニメや歌手について、キーワードを使って、情報やイラストを日本語のインターネットで探すことができる。		探す、する、	検索、入力、画像、動画、ウェブページ、新発見、ログイノベーション、カテゴリーみんな			毎、周、週、画、話、音、安、本、新、古	V (辞書形) VIない、Vている、Vていない。	画像を見ながら、キーワードをつかまえ、意味を推測する。	JF※

10	自由時間と 娯楽	やりとり (口頭)	ゆっくり、言い返しながら、相手と週末に会う時間と待ち合わせの場所を決めることができる。		会う、待つ、教える、忘れる、来る	待ち合わせ、前、中、真中、外、携帯電話、番号、地下鉄、バス停、フラットホーム	時間、日、待ち合わせ、前、中、真中、外、携帯電話、番号、地下鉄、バス停、フラットホーム	時間、日、待ち合わせ、前、中、真中、外、携帯電話、番号、地下鉄、バス停、フラットホーム	時間、日、待ち合わせ、前、中、真中、外、携帯電話、番号、地下鉄、バス停、フラットホーム	V2しましょう、Nの前で待ちます。～時にしましょう。Vないでください。	分からない時に説明を求めます。表現できない時に、ジェスチャーなどを補う。	JF※
11	自由時間と 娯楽	やりとり (文字)	既習の表現と易しい漢字を使い、相手と週末にメールで決めることができる。		会う、待つ、教える、忘れる、来る	待ち合わせ、前、中、真中、外、携帯電話、番号、地下鉄、バス停、フラットホーム	時間、日、待ち合わせ、前、中、真中、外、携帯電話、番号、地下鉄、バス停、フラットホーム	時間、日、待ち合わせ、前、中、真中、外、携帯電話、番号、地下鉄、バス停、フラットホーム	時間、日、待ち合わせ、前、中、真中、外、携帯電話、番号、地下鉄、バス停、フラットホーム	V2しましょう、Nの前で待ちます。～時にしましょう。Vないでください。	分からない時に説明を求めます。	JF※
12	生活と人生	産出 (書く)	札幌のニュースレターに、既習の言葉と簡単な表現で、ノボシビルスクの大学生(若い社会人)の一日について、短い文で、構成がやさしい記事を書ける。		おきる、シャワーを浴びる、食べる、飲む、行く、かかる、始まる、終わる、帰る、話す、読む、聞く、見る、書く、寝る、休む。	時間と曜日の言い方、朝、昼、夕方、夜、バス、地下鉄、喫茶店、メール、雑誌、図書館、授業	時間、日、待ち合わせ、前、中、真中、外、携帯電話、番号、地下鉄、バス停、フラットホーム	時間、日、待ち合わせ、前、中、真中、外、携帯電話、番号、地下鉄、バス停、フラットホーム	時間、日、待ち合わせ、前、中、真中、外、携帯電話、番号、地下鉄、バス停、フラットホーム	Vます/ません。Nで(バスで)に(9時に)Nで(場所)を	話題の展開、表現方法を考える。	SHC 学習
13	生活と人生	受容 (読む)	日本人の留学生がロシアの学習者の生活のために書いた、日本の大学生の生活を紹介する記事を読み返しながら、内容を大まかに理解する。	日本の大学生の生活	おきる、シャワーを浴びる、食べる、飲む、行く、かかる、始まる、終わる、帰る、話す、読む、聞く、見る、書く、寝る、休む。	アルバイト、テスト、アパート、電車、携帯電話	アルバイト、テスト、アパート、電車、携帯電話	アルバイト、テスト、アパート、電車、携帯電話	アルバイト、テスト、アパート、電車、携帯電話	から、までNで(電話で)VてNは、Vて、Vます。Aく+V	キーワードを把握し、意味を推測する。	SHC 学習
14	生活と人生	やりとり (文字)	週末や休みの日の出来事について、簡単な言葉と並べ、易しい漢字とかなでメモを大まかに理解する。		行く、出かける、帰る、来る、遊ぶ、買う、買い物をする、降る、やむ、晴れる。	天気、雨、雪	天気、雨、雪	天気、雨、雪	天気、雨、雪	V2に行く、見に行くVたり、だりする。V2ながら、Vないで、Vます。	話題の展開、表現方法を考える。自分で発話をモニターする。	SHC
15	生活と人生	やりとり (文字)	知り合いが易しく書いた、週末や休みの日の出来事についてのメモを、意味を推測しながら、理解できる。		行く、出かける、帰る、来る、遊ぶ、買う、買い物をする。	天気、雨、雪	天気、雨、雪	天気、雨、雪	天気、雨、雪	V(過去形)Vた/なかった。Aかった。Nだった。	キーワードをつかまえ、意味を推測する。	SHC
16	仕事と職業	産出 (話す)	既習の表現を使いながら、簡単に自分の会社や仕事について、ゆっくり説明出来る。		働く、仕事をする、作る、売る、勉強する、入学する、卒業する。	会社、商社、IT、工場、公務員、教師、看護婦、医者、将来	会社、商社、IT、工場、公務員、教師、看護婦、医者、将来	会社、商社、IT、工場、公務員、教師、看護婦、医者、将来	会社、商社、IT、工場、公務員、教師、看護婦、医者、将来	V前に、Vた後で、Vて、Vています。	話題の展開、表現方法を考える。ジェスチャーなどを補う。	JF※
17	仕事と職業	やりとり (口頭)	知り合いに、会社/職場について、簡単な言葉で基本的な情報を聞ける。はつきりとした答えなら、理解できる。		なる、働く、勤める、仕事をする、やめる、売る、作る、開発する	会社、商社、IT、工場、公務員、教師、看護婦、医者、将来	会社、商社、IT、工場、公務員、教師、看護婦、医者、将来	会社、商社、IT、工場、公務員、教師、看護婦、医者、将来	会社、商社、IT、工場、公務員、教師、看護婦、医者、将来	～から、(理由)Vたいです。～と思います。	発言をとり、表現できない時にジェスチャーなどを補う。分からない時に、説明を求めます。	JF※
18	旅行と交通	受容 (聞く)	札幌の観光地紹介のビデオを見ながら、名所や名物などの短い紹介を大まかに理解できる。	北海道の開拓の歴史	楽しむ、散歩する、味わう、	大道り、タワー、芸術の森、冬のオリンピック、サツポロピール園、雪祭り、ドーム、観光、名物、四季、東西南北ラーメン、すし、ホタテ、えび、うに、サーモン、羊肉、ウイスキー、スキー、スキーウェア、スキーウェアなど	大道り、タワー、芸術の森、冬のオリンピック、サツポロピール園、雪祭り、ドーム、観光、名物、四季、東西南北ラーメン、すし、ホタテ、えび、うに、サーモン、羊肉、ウイスキー、スキー、スキーウェアなど	大道り、タワー、芸術の森、冬のオリンピック、サツポロピール園、雪祭り、ドーム、観光、名物、四季、東西南北ラーメン、すし、ホタテ、えび、うに、サーモン、羊肉、ウイスキー、スキー、スキーウェアなど	大道り、タワー、芸術の森、冬のオリンピック、サツポロピール園、雪祭り、ドーム、観光、名物、四季、東西南北ラーメン、すし、ホタテ、えび、うに、サーモン、羊肉、ウイスキー、スキー、スキーウェアなど	動詞：現在・過去形VてNであるNにあるNがVの交替	キーワードをつかまえ、意味を推測する。	JF※

19	旅行と交通	受容 (読む)	札幌の観光地紹介のパンフレットを 読み、名前や名物など、大まかに推 測しながら、理解できる。	北海道の開 拓 の歴史	楽しむ、散歩する、味わう	大通り、タワー、 芸術の森、冬のオーリンピック ク、サッポロビール園、雪 祭り、ドーム、観光、名物 四季、東西南北 ラメン、すし、ホタテ、羊 えび、うに、サーモン、羊 角、ワイナリー、サースポーツ、 スキー、スケート、スキー キャンプなど	広い、狭い				空、窓、 油、白、東西南 人、北、春、秋、 夏、冬、	辞書形、過去形 Vて 形容動詞(現在形・過去 形) ANです、でした/ た、ANで ANにV	イラストを助け舟に して、キーワードを推 測する。	JF※
20	旅行と交通	やりと り(口頭)	簡単な言葉で、旅行について主な情 報と印象をゆつくり聞ける。はつき りとした答えなら理解できる。	温泉、旅 館、お土産の考 え方	見学する、泊まる、疲れる、 かかる	観光客、お客さん、 ホテル、レストラン、お土産 飛行機、列車、電車、フェ リー		期(一年間、一ヶ 月、一日間) どう、どのよう に、どのぐら い 何日?2泊			Nで(一日で) NIに(泊まる) また行きたいです。	発音をとる。 表現できない時に、 ジェスチャーなどを 補う。 分からない時に、説 明を求める。	JF※	
21	買い物	仲介	日本人の知り合いに、買い物を手伝 うときに、買いたい物(値段、サイ ズ、色、売っている店)について、 簡単な短い表現で、ゆつくりとはっ きりと話し合うことができる。	デパート、 日本の市場	買う、着てみる、 頼む、似合う、違 う	ルーフ、試着、 おつり、人気、 ロシアのお土産の名前、名 物、おつり	赤い、青い、 緑、茶色、黒	いくらですか? 彼の、別の、 教え方: 叔、両親、 本、台 本、だけ、ぐら い			円で行くんですか? NIHANGよりやすい V2たい Nがほしい NIにします。	表現できない時に、 他の方法を補う。 分からない時に、説 明を求める。	SIC	
22	食生活	やりと り(口頭)	相手に好き/嫌いな食べ物や簡単に 聞ける。はつきりして答えてくれた ら、理解できる。自分の好き/嫌 いな食べ物も短く言える。	和食/洋食 日本料理	あげる、痛く、 いためる、煮る、ゆでる	味、なま、料理の名前、 魚、肉、野菜、デザート	甘い、 辛い、辛い、すつ ぱいなど	Nとは、どのよう な料理ですか。 Nが好きです。 好きな料理はNで す。私も			Nが好き/嫌い です/ではないです。 大～、あまり、とても、 全然 Nが甘くて、好きです。	表現できない時に、 他の方法を補う。 分からない時に、説 明を求める。	CEFR F-223※	
23	食生活	受容 (読む)	インターネットや雑誌などで、写真 やイラストを見て、料理のレシピを 読み返しながら、大体理解できる。	味付け、 調味料、切 り方	あげる、痛く、 いためる、煮る、ゆでる、冷 やす、ませる、洗 う	フライパン、なべ、ポ ット、スプーン、 中火、	強い、弱い	できあがり			Vて、V Vな後、V3前、Vてから Vである。	キーワードをつかま え、意味を推測す る。	JF※	
24	食生活	産出 (話す)	相手に、写真やイラスト、実物を見 せながら、短い言葉で、ロシア料理 について、ゆつくり説明できる。	主食の考 え	ある、質問する、 答える	メーブル、 質間、	体に良い、 体に悪い、 冷たい、温かい、 熱い	ロシア料理を紹介し ます。 ロシア料理の名前、 料理の種類: スープ、サラ ダ、メイン料理			NIの中にNIが入って いる、NIというの は、NIのこと です、 この主まで食べ ます。	表現できない時に、 ジェスチャーなど を補う。 分からない時に、説 明を求める。	JF※	
25	人との関係	やりと り(文字)	既習の表現を使って、日本語での メールを書き始め、書き終わること が出来る。	日本人の メール文化	ある、質問する、 答える	メーブルドレス、 質間、	答、	お世話になっていま す。今後もよろしくお願 いいたします。一つ の質問があります。			Vか、Vないか、わか りません。	自分で書いた文を モニターする。	SIC	
26	人との関係	やりと り(文字)	既習の表現を使って、日本人の知り 合いがメールで新しく書いた質問を 理解できる。簡単に返事を書ける。	日本人の メール文化	ある、質問する、 答える、待 てる	メーブルドレス、 質間、	答、	返事を待っていていま す。楽しみにしていま す。ありがとうございます をありがとうございます すみません			Vか、Vないか、わか りません。	自分で書いた文を モニターする。	SIC	
27	人との関係	やりと り(口頭)	プレゼントをおたす時に、決まりの 表現を使って、ゆつくり話しなが ら、感謝の気持ちを伝えることが できる。プレゼントをもらう時に簡 単にお礼を言える。	お土産、中 元、お歳暮	あげる、もらう、く れる、喜 ぶ、思い出す	プレゼント、お土産	嬉しい、大切に	お世話になりました。 色々ありがとうございます しました。時々、シ ベリアを思い出して ください。			～をありがとうございます すみません。NIに (誰に)、Nから	表現できない時に、 他の方法を補う。	CEFR F-337 ※	
28	人との関係	やりと り(口頭)	交流事業で、日本人の知り合いに、 あげたロシアの民芸品やノボシル スクの名物について、学習済みの表 現を使って、ゆつくりと説明がで きる。		使う	もの、の、伝統、 シヤの中心、白樺の皮、 の実、ミンクの飾り、 ネット、手作り、手 袋、フラ	有名、重い、 軽い	よく、みんな、 時に もう			これ、この、 V(辞書形) N これは、飾るもの です。 ～時に	表現できない時に、 他の方法を補う。	JF※	

29	人との関係 やりとり (文字)	既習の表現を使って、易しい漢字とかなでクリスマスカードを書くことができる。	クリスマスとお正月	なる、祈る					あけまして、おめでとうございます。		～になる。	自分で文のモニターする。	CEFR F-338※
30	人との関係 やりとり (口頭)	SHCの交流会で、日本人に話しを聞いて、日常の簡単な話題について、ゆっくり聴ける。重要な点を繰り返しながら、はつきりと言われた答えなら、大体理解する。		任んでいる	留学、会社、仕事、				どのぐらい どう、その前、その後 N中 (旅行中) そうですか、それはいいですね。		Nはどうですか。 Vましょう。 Vませんか。 Vてくださいませんか。	発言権を取る。 話題の展開。	CEFR F-311※
31	学校と教育 やりとり (口頭)	短い簡単な言葉で、自分の学校の生活について、重要な点を繰り返しながら、ゆっくり話し合うことができる。	日本の教育制度	入学する、卒業する、やる	勉強、数学、国語、文学、歴史、音楽、体育、理科、物理学、化学、経済学、クラブ活動、テスト、論文、宿題、レポート、こと				一生懸命、 どんなこと		…年に卒業します。 Vたり、たりしました。 その後、…したいです。	表現できない時に、 ジェスチャーなどを 補う。 分からない時に、 説明を求める。	JF※
32	学校と教育 やりとり (口頭)	自分の日本語学習について、はつきりと言った質問なら、簡単な言葉を使って、ゆっくり答えることができる。		覚える、忘れる	漢字、文法、会話、 インターネット、電子辞書、読み方、書き方				毎日、よく、時々、 たまに		V方、 こと、覚えることは、 難しい。	話題の展開。 表現できない時に、 ジェスチャーなどを 補う。	SHC
33	言語と文化 受容 (聞く)	茶道や生花など、日本伝統的な文化に関わる文化体験プログラムの参加中、先生の行動を見ながら、説明の重要なポイントを見ながら理解できる。	茶道、華道	やってみる、 いただく	歴史、世紀、時代、武士、農民、文化、心、和菓子、おじぎ、お礼、かけじ				それから、そして、 次に、自分で		Vで、Vて、Vます。 Vてから	分からない時に、 助け舟を使って、 意味を推測する。	JF※
34	言語と文化 受容 (読む)	インターネットや雑誌などの、自分の興味のある日本の伝統文化についての記事や、写真やイラストを見て、重要なポイントを読み返しながら、内容を大まかに理解する。	各時代の紹介		伝統、江戸、京都、お寺、神社、四季、下町、お城、時代、武士、農民、文化、心、和菓子、おじぎ、お礼、かけじ				お寺、神 社、江戸、 京都、東 京、道、茶 道、生花、 言		辞書形、過去形 Nと言います。	分からない時に、 助け舟を使って、 意味を推測する。	JF※
35	言語と文化 受容 (読む)	インターネットや雑誌などの、自分の興味のある日本の伝統文化についての記事や、写真やイラストを見て、重要なポイントを読み返しながら、内容を大まかに理解する。	日本文化における地域と季節		伝統、江戸、京都、お寺、神社、四季、下町、お城、時代、武士、農民、文化、心、和菓子、おじぎ、お礼、かけじ				日本、外 国、日本 語、山、 花、		辞書形、過去形	分からない時に、 助け舟を使って、 意味を推測する。	JF※
36	言語と文化 産出 (話す)	SHCの事業では、グループで、事前準備したら、イラストや写真を見せながら、ロシア文化について、簡単なプレゼンテーションができる。		知る、分かる、 生まれる	文学、小説、音楽、 パレエ、オペラ、教会、 舞、民族、衣装、広場、市 場				是非、 紹介したいと思いま す。		Nとは、…のことです。 知っていますか。	話題の展開。 表現できない時に、 ジェスチャーなどを 補う。	JF※
37	言語と文化 やりとり (口頭)	自分が興味のある日本文化について、ゆっくり、簡単な言葉で、日本人の知り合いに聞くことができる。	若者文化	習う、調べる、 知る	アニメ、歌手、 ファッション、歌、メイ ク、CD、演劇、歌舞伎				いつ、どこ、どう やって		V3ことが出来ます。	話題の展開。 表現できない時に、 ジェスチャーなどを 補う。	JF※
38	言語と文化 やりとり (文字)	日本文化体験プログラムの参加後、簡単な言葉を使って、易しい漢字とかなで、感想をメールで書くことができる。		とる、送る、 気に入る、着る、はく	写真、筆、和紙、 着物、下駄				昨日、先週、おとと い、先月、去年		Vでみる。 ～しました。 NはAかったです。 NはAくなかったです。	話題の展開。 自分のレバートリー の中から適切な表現 形を思い出して、 使ってみる。	JF※

## 資料5 実験授業②の教案

**1 到達目標 (Can-do)** 交流会などで、相手と家族の人の名前や年齢、職業について、既習した簡単な言葉で、ゆっくり短い話し合いができる。(口頭のやりとり)

※学習項目：質問の仕方(情報を得て、興味を見せて、質問する)、反応の表現(そうですか、それは大変ですね、いいですね)

**2 学習者** SHC 日本語講座2年生、9名。学習時間は約150時間。

**3 授業の時間と設備** 90分、プロジェクター、パソコン、配布資料(練習シートなど)

ウォーミングアップ(活性化) 5分	実際、交流会の時、日本人と話したことがあるか、その経験を思い出す。ロシア人同士は、家族について話す時にどう話すか、背景知識を活性化する。	
目標の確認 2分	授業の目標を説明する。	
導入 5分	モデル会話のビデオを見せる。内容を理解するためにビデオについて話し合う：誰と誰が話しているか、どのような人か、場所はどこか。	ビデオ：交流会でロシア人と日本人の会話(家族について)
気づき 5分	ロシア人と日本人が家族について話す時に、何を話しているか、どのように話が展開したか。	
活動1 20分 家族についての質問を考える。	練習1,2目的：家族についての質問が出来るようになる。 練習1(口頭)写真を見て、山本さんの家族について質問を考える。 練習2(口頭)ビデオを見て、内田さんの家族について質問を考える。 練習3,4目的：反応の表現に気づく。自分で使ってみる。 練習3(口頭)テープを聴いて、2人の会話から、反応の表現に気づく 会話の例：日本人-日本人： A：子供さんは、学校から帰ると、一人で家にいますか。 B：私の母と一緒に住んでいます。息子が学校から帰ると、お祖母さんがいるから、安心です。 A：それはいいですね！ 練習4(口頭)教師の話聴いて、反応の表現を使って、答える。	練習シート、 使用教材：国際交流基金(2006)『すぐに使える「レアリア・生教材」コレクション CD-ROM ブック』  聴解の自作教材
活動2 15分 モデル会話を理解し、展開のパートナーについて考える。	モデルのビデオをもう一度見て、表現などに気づき、会話の展開がどうなっているか、話し合う。 モデル会話をセリフに分ける、一つのセリフを見せて、どのような質問をすればいいか、学習者に聞く。最後に、どうするか、質問を続ける(話を終える、話題を変えるなど) 会話の展開のパートナーに気づかせる。	会話のテープ(ビデオ) 穴埋めシート
活動3 25分 グループ活動	グループ活動(グループ：3人 A,B,C) 活動の課題：あなたは、パーティーである人と知り合いになりました。その人は、どのような人か、知るために、家族について聞いてください。 AとBは質問-回答、Cはモニター(交代) AとBは、以前の授業で作成した家族についての話のアウトラインを見ながら、自分の家族について話し合っ(質問のやり取り)、Cはモニターする。全員が順番に話してから、自己評価と他人評価のシートを記入する。	自己評価・他人評価シート (交流会の雰囲気を作るために、紙コップを持って、立って会話をする) 教師は時間をコントロールし、学習者のサポートをする。
学習者のフィードバック 8分	何がよく出来たか、何が上手く行かなかったか、評価のシートを見ながら、話し合う。代表として1組に会話例を発表させる。	
教師からのフィードバック 5分	目標を到達したかどうか、確認し、長所と注意点を言う。	